

再評価結果（平成16年度事業継続箇所）

担当課：北海道開発局都市住宅課  
担当課長名：岡部 和憲

事業名 中央通(虻田町)		事業区分 街路	事業主体 北海道
起終点 自：北海道虻田郡虻田町字洞爺湖温泉町144 至：北海道虻田郡虻田町字洞爺湖温泉町1-35		延長 1.1km	
事業概要：中央通は、北海道の主要な観光地である洞爺湖温泉市街地に位置し、当温泉街と国道230号を接続する延長約1.1kmの主要な幹線道路である。また当路線は、災害時の緊急輸送路に指定されており、車道を拡幅し自歩道の整備を行うものである。			
H7年度事業化	S37年度都市計画決定 (H16年度変更)	H7年度用地着手	H14年度工事着手
全体事業費	約52億円	事業進捗率	81%
計画交通量	9,100台/日	供用済延長	0.8km
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 2.0 (残事業) 13.5	総費用 (残事業)/(事業全体) 10 / 61億円 (事業費：9/60億円) (維持管理費：1/1億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 122 / 122億円 (走行時間短縮便益：119/119億円) (走行費用減少便益：3/3億円) (交通事故減少便益：0/0億円)
事業の効果等		基準年 平成16年	
<ul style="list-style-type: none"> <li>個性ある地域の形成（主要な観光地へのアクセス向上が期待される）</li> <li>災害への備え（緊急輸送道路ネットワーク計画に位置づけがある）</li> </ul>		他4項目に該当	
関係する地方公共団体等の意見 有珠山噴火により事業が一時中止された期間もあったが、虻田町の関連事業も着手され、基幹道路としてまた避難道路としても重要性が増し、住民からの早期完成要望が多く寄せられている。			
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 有珠山噴火により事業が一時中止された期間もあったが、虻田町の関連事業も着手され、基幹道路としてまた避難道路としてますます本路線の重要性が増している。			
事業の進捗状況、残事業の内容等 平成12年3月の有珠山噴火により一時中断されたが、その後順調に進捗し、現在0.8kmを部分供用している。			
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 有珠山噴火による一時中断期間があり事業期間が延びているが、住民からの事業推進に対する要望が多く、事業進捗に影響を与える重大な懸案事項も無いことから、平成20年度に全線供用予定である。			
施設の構造や工法の変更等 道路縦断勾配を6%以下とすることにより、ロードヒーティングを不施工とし改築費、維持費の軽減を図っている。			
対応方針	事業継続		
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。		
事業概要図			

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。